4月9日　キリストの受難　聖書研究

テキスト　マタイによる福音書 27章32〜44節

〈背景と文脈〉

ゲツセマネの園で祈り勝利された主は、父なる神の御心を成就するために、ご自身を自発的に罪人たちの手にゆだねられた。逮捕、最高法院での裁判を経た後、ローマの総督ピラトによる死刑判決がくだされた。総督の兵士たちはイエスを鞭打ち、茨の冠を頭にかぶせ、つばを吐きかけ、頭をたたき、侮辱したのち、十字架につけるため引いて行った。

〈十字架につけられる〉(27:32〜38)

十字架刑を受ける者は、自分がはりつけにされる十字架の横木を刑場まで運んでいくのが習わしだったようである（縦木はすでに刑場に建てられていた)。夜を徹しての裁判で疲労困憊し、鞭打ちで体に傷を負われていた主は、それを運ぶ力がなかった、と思われる。兵士たちは、ちょうど通りかかったシモンという名のキレネ人に、主の十字架を無理に担がせた。

されこうべの場所という意味のゴルゴタは十字架刑が公開で執行される場所だった。兵士たちは、「苦いものを混ぜたぶどう酒」(34) を主に飲ませようとしたが、主はなめただけで飲もうとされなかった。苦いものを混ぜたぶどう酒は、十字架刑を受ける者の痛みの感覚を麻痺させ、軽減するものだったが、主はそれを望まれなかった。

十字架刑の場面を描写するにあたって、著者マタイはキリストの苦しみに焦点を置かず、兵士たちの行動に焦点を置いた。ちなみに「十字架につける」(35) という語は分詞で、主動詞は「その服を分け合い」(35) である。くじを引き、服を分け合った兵士たちの無意識の行動によって詩編22:19の預言が成就した。

頭上に掲げられた罪状書きには「これはユダヤ人の王イエスである」と書かれていた (37)。当時ユダヤはローマ帝国の支配下に置かれていたため、そう主張することは政治的な反逆罪に相当した。しかしユダヤ人にとってこの称号は、ダビデの子であるメシアを指すものであった。だから、その罪状書きを見て、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「この男は『ユダヤ人の王』と自称したと書いてください」とわざわざ頼んだのである(ヨハネ19:21)。この罪状書きは、主イエスが神から遣わされたメシアであることを、いみじくも示していたのである。主の右と左に二人の強盗が十字架につけられた。これによって、「罪人のひとりに数えられた」(イザヤ53:12) という受難のしもべの預言が成就した。

〈侮辱される〉(27:39〜44)

この箇所には、十字架上の主に投げかけられた通行人の罵りの言葉 (40)、祭司長たち、律法学者たち、長老たちの罵りの言葉 (42〜43) が記されている。左右の強盗までも同様に罵った、とある。

彼らの言葉の背後にあるのは、神の子でありメシアなら、当然十字架から降りて自分を救えるはずだ、という考えである。「他人は救ったのに」という表現は、主が病人をいやし、死人をよみがえらされたことを指している。自分を救えない者など、神の子、メシアであるはずはなかった。主は逮捕される時、「わたしが父にお願いできないとでも思うのか。お願いすれば、父は十二軍団以上の天使を今すぐ送ってくださるであろう。しかしそれでは、必ずこうなると書かれている聖書の言葉がどうして実現されよう」(26:53〜54) と言われた。主は、ご自分を救うことが出来たのに、そうなさらなかった。十字架を回避する誘惑を受けられていたことは、ゲツセマネの祈りから明らかである。祈りによって勝利された主は、神の贖いのご計画を成就するために、十字架から降りようとはされなかった。そのようにご自分を救わないで、他を救う道を開かれた方こそ、私たちのまことの救い主である。　(後藤公子)

4月9日　　キリストの受難　　説教展開例

テキスト　　マタイによる福音書 27章32〜44節

〔単元のねらい〕

受難週を迎えました。今回の聖書箇所は、受難のクライマックス、神様に見離される箇所は入っていませんが、ここに受難の本質がありますから、きちんと語っておきたいと思います。そして、イエス様の受難を「かわいそう」なことではなく、自分の救いにつながる厳粛な事実として伝えたいと願っています。

今回の聖書箇所は、イエス様がののしられながらも、その気になりさえすれば十字架から降りることもできたのに、私たちを救うというそのことだけのために、あえて十字架にとどまられたことが書かれています。先週のゲツセマネの祈りの箇所と共に、イエス様がご自分の意志で、私たちを救おうという神様の御心に従おうとされていることを喜びたいと思います。そして最後は、来週のイースターの喜びを予告して終わりましょう。

「十字架から降りてこないイエスさま」

ゲツセマネで捕まえられたイエス様は、裁判を受けて、十字架にかけられることになりました。イエス様は何一つ悪いことはしていないのに、死刑になることになったのです。十字架の刑というのは、死刑になる人を釘で十字架に打ち付けて、そのままだんだん弱って死んでしまうまで放っておくという死刑の方法でした。ですから、死んでしまうまでの時間、その人は長い間苦しまなければならなかったのです。

イエス様の苦しみは、それだけではありませんでした。イエス様はこの十字架の上で、神様に「お前なんか知らない！」と見離されなければならなかったのです。それは、私たちのためでした。本当は、神様に見離されるのは、神様の言うことを聞くように造られたのに、神様について行くよりも自分が神様みたいになって好きなようにしていたいという「罪」があって、そのままでは天国の神様のところに行けない私たちだったのです。けれども、イエス様が私たちの代わりに、十字架の上で神様に見離されてくださって、私たちは「罪」がないことにしてもらえて、天国に行くことができるのです。私たちが天国に行くために、イエス様は苦しい十字架の上で、神様に見離されてくださったのです。

そんなふうに、十字架の上で苦しんでいるイエス様に、まわりで見ていた人たちは言いました。「救い主だというのなら、自分を救ってみろ。苦しい十字架から降りて来てみろ」。イエス様と一緒に十字架に付けられていた強盗たちも、いっしょになってイエス様に悪口を言いました。みんな、イエス様のことを口先だけで何もできない奴だと思って、ばかにしていたのです。けれども、イエス様は何もお答えになりません。十字架にかけられてしまうと、イエス様も何もできないのでしょうか？　私たちの救い主は、そんなに力のない方なのでしょうか？

そんなことはありません。イエス様は、何でもできる神様です。イエス様がその気になれば、天から大勢の御使いがやってきて、周りにいる人たちをけちらして、イエス様はまるで何事もなかったかのように十字架から降りることもできたのです。でも、イエス様はそうなさいませんでした。ご自分のお考えで、苦しい十字架から降りずに、神様から見離されることをお選びになったのです。

それは何のためだったでしょうか。それは、さっ

きもお話ししました。私を、あなたを、天国に連れて行くためです。私たちが神様に見離されることがないように、神様の言うことを聞かなかったことなど何一つないイエス様が、私たちの身代わりになって神様に見離されるためです。イエス様のことを知らない人たちは、いろんな悪口を言います。でも、何を言われても、どんなに苦しい目にあっても、イエス様はただ私たちを天国に連れて行くために、十字架の上で痛いつらい目にあい、みんなにバカにされ、神様に見離されたのです。

そして、イエス様は、自分を十字架にかけたうえに悪口を言っている人たち、ファリサイ人や律法学者たちや強盗たちのためにも十字架から降りずにいたのです。みんなも良く名前を知っているパウロさんは、最初はイエス様の教えに反対するファリサイ人でした。でも、イエス様はパウロさんが救われるために十字架から降りませんでした。また、イエス様の隣で十字架にかけられていた強盗の一人は、最初はイエス様を馬鹿にしていたかもしれませんが、やがて十字架の上でイエス様が本当に神の子であることを信じました。イエス様は、この強盗が天国に入るために十字架から降りませんでした。イエス様は、こんな人たちのためにも、十字架の上で神様に見離されてくださったのです。

私たちは、そんなにも大きなイエス様の「私たち一人ひとりを大切に思う気持ち＝愛」に包まれています。そして、イエス様が私たちを愛していてくださるのは、それが神様のお考え（＝御心）だからです。ヨハネによる福音書の3章16節に、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである」という御言葉があります。神様はご自分のたった一人の子、イエス様をお見捨てになるほどに、世（＝私たちのこと）を大切に思っておられるのです。愛しておられるのです。そして、イエス様を信じる私たちが、一人も欠けずに天国で神様といつまでも一緒にいることを願っておられるのです。なんでもできる神様がそうお考えなのですから、イエス様を信じる私たちが天国に入ることは確かなことなのです。

そのために、イエス様は、それはつらい苦しいことだったのですが、ご自分から進んで、十字架から降りずに、神様に見離される道をお選びになったのです。

そして、イエス様は、神様に見離されて、それで終わりではありませんでした。私たちは来週の日曜日、素晴らしい知らせを聞きます。それは、十字架の上で私たちの代わりに神様に見離されて死んでくださったイエス様が、生き返られた・よみがえられたという知らせです。そこで、私たちにどんな素晴らしい知らせが待っているのか、みなさん、楽しみにしていてください。（伊藤治郎）

〔今週の暗唱聖句〕　ヨハネによる福音書 3賞16節

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

4月9日　キリストの受難　幼稚科

ねらい：イエス様が私のために十字架にかかられたことを知る。
視覚教材：正方形の箱、赤い画用紙の十字架、赤・黒・白のハート、リボン

【お話前の準備】
①正方形の箱の中にハートの画用紙を入れる
②箱を赤い画用紙の十字架で包む
③リボンをくくる

【お話】
みんなプレゼントをもらったことはあるかな？（プレゼントの箱を見せながら）プレゼントはどんな人からもらうかな？　お母さん？　お父さん？　友達からかな？　みんなの事を大切に思っている人がプレゼントをしてくれますね。神様もみんなの事が大好きなので、あるプレゼントをくれました。このプレゼントのリボンを外してもらえますか？（箱は置いておいて、まず包み紙の赤の十字架を見せて）、これは何かな？　よく教会でみますね。ペンダントにしている人も見ます。十字架は大昔には悪い人がはりつけにされて殺されるための道具でした。でもなぜその十字架を大切にみんな持っているのでしょう？

イエス様の事はみんな知ってるかな。どんなひとかな？（子ども達の言う事を聞く）とっても優しくてたくさんの人を助けられました。神様のひとり子、一度も悪いことをされませんでした。それなのにイエス様は十字架にかけられてとても苦しまれました。十字架が赤いのは血の色です。ちょっとケガしただけでも痛いですよ。イエス様は苦しくて痛くて、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか？」と言われるほどでした。苦しみながらイエス様はついに亡くなられました。

なぜイエス様は苦しみながら亡くなられたのでしょう。何でもできる方なのになぜその場所から逃げ出されなかったのでしょう？　その答えはこの箱の中にあります。（赤いハートの紙を出して）それはみんなの事を大好きだからです。（黒いハートを出して）私達1人ひとりにはうそをついたり、人をいじめたりする悪い心があります。本当ならば私たちが十字架にかかって死ななければいけないのに、身代わりにイエス様が十字架にかかり、私たちの真っ黒な心を真っ白にしてくださいました。（白いハートを出して）この十字架にかかられたイエス様が、神様からの一番のプレゼントです。

【工作】
①プラ版を十字架の形に切り、上の方にパンチで穴を開ける。
②子どもたちに油性のマジックで色を塗ってもらう。
③大人がそれを預かり、オーブンレンジ（500w）で20秒から30秒ほど、くしゃくしゃにしたアルミホイルの上で小さくなるまで焼く。
④本の間にプラ版を挟み平らにする。紐やリボンを通し出来上がり。（プラ版や油性ペンは100円ショップで購入できます）

4月9日　　キリストの受難　　小学科下級

マタイ27:32〜38をよみましょう。

1. なぜ、へいしたちはイエスさまのじゅうじかをべつの人にかつがせたのですか？

2. イエスさまはにがいものをまぜたぶどうしゅ（いたみをやわらげるためのもの）をのみましたか？
それはなぜですか？

3. なぜ、じゅうじかに「ユダヤ人の王」とかかげたのですか？

マタイ27:39〜44をよみましょう。

4. とおりかかった人はなんと言いましたか？　さいしちょうたちはどうですか？

5. イエスさまは、ののしる人たちになにか言いかえしましたか？

6. イエスさまは自分をすくうことがおできになりましたか？

7. じゅうじかのイエスさまのすがたを、どう思いますか？

4月9日　　キリストの受難　　中学科

マタイ27:32～38を読みましょう。

1. なぜ兵士たちはイエス様の十字架をシモンに担がせたのですか？

2. イエス様は苦いものを混ぜたぶどう酒を飲まれましたか？　それはなぜだと思いますか？

3. イエス様に対する兵士たちの態度はどうでしたか？

4.「ユダヤ人の王」という罪状書きを掲げた意図は何でしたか？

マタイ27:39～44を読みましょう。

5. 通りかかった人、祭司長たちがイエスさまに投げかけた言葉はどのようなものでしたか？

6. それに対して、イエス様は何か反応されましたか？

7. イエス様は、十字架の苦しみから自分を救うことができましたか？

8. このイエス様の姿を、あなたはどう思いますか？